

第 91 回目の GIS News! です

「弥生」3月は卒業、転勤と慌ただしく何かもの悲しさを感じますが、「春」は新しい芽が吹き物事の成長が始まる躍動の季節です。新しいことにチャレンジするのに良いタイミングではないでしょうか。

さて、今回は庄内の農業 GIS の動向について紹介致します。



福寿草の花言葉は「幸福」

「GIS を活用した農業振興検討会」

庄内地区が一丸となり農業 GIS に取り組むため、全農庄内の主催で昨年 12 月 20 日に庄内農業共済組合本所で「GIS を活用した農業振興検討会」が開催されました。下記の講演と事例発表会に農業関係者約 100 人が集まりました。

- ・基調講演「GIS による新たな農業の展開」東北大学農学部 齋藤元也教授
- ・事例発表「GIS を使ったリモートセンシング」東京工業大学 小杉幸夫教授
- ・事例発表「農業農村事業におけるの取り組み事例」水土里ネット山形
- ・事例発表「GIS の戦略的活用による地域営農支援」地域農業経営戦略研究会

「庄内農業 GIS の方向性」

講演、事例発表後パネルディスカッションが行われ、導入を検討中の関係者から「庄内米がブランド米であったのは昔話となってしまった。昔の山居倉庫に匹敵する品質管理を行うためには、GIS を活用する必要がある。」との意見がありました。既に導入している団体からは「GIS はハードルが高く操作（更新処理）が大変である。」との発言に、東工大の小杉教授が「人材育成は大学の任務である。今の若い人達が大学で GIS を学び社会に出たなら GIS の操作を簡単にこなす事も可能になると思う。」と心強い回答がありました。また、パネリストの山形大学農学部の安藤豊教授からは「将来の GIS は個人(生産者)の使い方を考える必要がある。例えば、生産者がデジカメで撮影したデータを農業管理センター(JA 等)に送ると、追肥の必要性、刈り取り適期についてのアドバイスを貰えるならばデータは自然と集まるのではないか。生産者がデータを提供したくなるような GIS システムにするには、予測データまで盛り込むことが必要である。」と将来の農業 GIS の方向性についてのお話もありました。

昨年の検討会に参加した方々が、今年新たに動き出しています。JA 庄内みどり で 2 月 25 日「飽海地域農業 GIS 研究会発会式」が行われました。農業 GIS の効率的なデータ構築と使えるシステム作りを目指し、飽海地域の農業関係者が協力しようとしています。2005 年庄内の農業 GIS に大きな動きがありそうです。

次回の GIS News!

今回は、2005 年 4 月 4 日発行予定です。よろしくお付き合いください!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤まゆみ 発行日：2005 年 3 月 15 日

